

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
白梅学園 高等学校	22	<table border="0"> <tr><td>9</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>13</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td colspan="3">7mTC</td></tr> </table>	9	—	11	13	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			23	県立岩国 商業高等学校
9	—	11																				
13	—	12																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

大会2日目第1試合は岩国商業10番石丸のシュートで幕を開ける。対する白梅学園も多

彩なポストプレーで得点を重ねる。一進一退の攻防が続いたが前半の中盤に入り岩国商業は GK

中尾のナイスセーブで流れを掴み3連続得点で差を4点に広げる。しかし前半終盤、白梅学園もアグ

レッシブな1-5DFからの速攻で同じく4連続得点を挙げ、差を2点に縮め前半を折り返す。

後半開始直後、前半終盤の勢いそのままに白梅学園は4番大澤のペナルティースロー、7番千原

のサイドシュートで同点に追いつく。その後は白梅学園は9番野田のサイドシュート、対する岩国商業

は7番村本のミドルシュート等で互いに得点を重ねてゆく。しかし後半10分ごろ岩国商業が連続退場

でコートプレイヤーが4人になる場面があり、ここで勝負あったかに思えたが、岩国商業はこのピンチ

を1失点で切り抜ける。その後も1点を争うゲームが続いたが、試合を通して GKを中心としたDFを続け

た岩国商業がこの好ゲームを制した。

29年 3月 25日

記載者氏名 中村 健斗

戦 評 用 紙

12

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 高砂市体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
横浜創学館	36	[ 20 - 9 ]	19	函館大付属有斗
		[ 16 - 10 ]		
		[ - - ]		
		[ - - ]		

立ち上がり、地元のような大声援を背に、横浜創学館が中村、中田（航）を中心に得点を重ね、試合を有利に進める。対する函館大付属有斗は1年生の伊藤、荒木を中心に反撃を試みるが、二度の4連続得点を許すなど、横浜創学館の勢いを止めることができず、前半を20-9で折り返した。

後半は一進一退の競り合いが続くかと思われたが、横浜創学館が集中した堅い守備を見せる。退場者を出すものの、相手の連続得点を許さず、逆に石井、市原、中田（航）などの得点で、着実に点差を広げた。特に、中田（航）の冷静なプレーが光った。函館大付属有斗は、小本がポストシュートで4得点を奪うなどしたが、堅固な守備を崩すことができない。逆に、疲れの見え始めた終盤に5連続得点を許してしまうなどし、36-19というスコアで試合終了。

横浜創学館が3回戦に駒を進めた。

29年 3月 25 日

記載者氏名 高橋 厚之

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 1

男子 ・ 女子 (2 回戦) ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名
岩国工業高校	31	[ 16 - 13 15 - 12 - - - 7mTC                 ]	25	神国大附属高校

初戦コザを下した神戸国際大附属と昨年春夏連覇の岩国工との対戦。神国大附のスローオフで試合開始。先制点は岩国工藤川、直後に神国大附梶山の得点で反撃。その後互いに得点を重ねる互角の展開。前半中盤、神国大附サイド仲舟井、田上らの得点を中心に3点差まで広がるが、岩国工ディフェンスからの速攻で18分、8対8の同点となる。19分岩国工退場者が出る間に神国大附はリードを2点差に広げる。前半終盤、神国大附は岩国工のディフェンスに阻まれ、速攻で加点され26分に同点。その後岩国工は2点差とリードする。前半終了1分前、岩国工1点リードでタイムアウト。直後に岩国工が得点、ここで神国大附がタイムアウト。岩国工終了間際の得点で前半終了。後半開始、岩国工尾川のセンターからのシュートでスタート。後半3分、岩国工尾川の3連続速攻得点のあとリズムに乗れない神国大附がタイムアウト。5分には岩国工8点差にリードを広げる。神国大附は後半6分、11分の岩国工退場者を誘発するキレのあるプレー、9分から岩国工藤川へのマンツーマンと岩国工リズムを崩しにかかる。神国大附に流れが行く場面もあったが岩国工7～5点リードで試合は推移し、試合終了。

29年 3月 25日

記載者氏名 廣野尚敏

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男6

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
川西緑台	20	<table border="0"> <tr> <td>10</td> <td>—</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>—</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">7mTC</td> </tr> </table>	10	—	7	10	—	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			18	浦和実業
10	—	7																				
10	—	11																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

大歓声の中、地元兵庫・初出場の川西緑台と浦和実業の対戦。開始早々、浦和実業No.3 清水のシュートで先制。No.4 古口のロングで追加点。浦実が序盤の流れを掴むかと思われた5分33秒、緑台No.3 キャプテン平野のカットインで反撃開始。両チームの粘り強いDFで無得点の時間帯が続いたが、9分15秒セットプレーによって緑台No.8 吉岡のシュートで均衡を破る。その後、緑台No.6 山崎の連続得点でゲームの主導権を握る。対する浦実スピードに乗った力強い攻撃で緑台DFを翻弄。警告・退場を誘い、7mスローで点差を詰める。しかし、緑台山崎のスタンディングミドル等で流れを渡さず、前半は緑台ペースで終えた。

後半も前半の流れのまま、パスカットによる連続得点で緑台が主導権を握る。しかし、浦実のOFのパワーに緑台DFは押され始め、古口・石井両左腕のロング、No.5 高尾のDFを振り切る力強いシュート等で流れを手繰り寄せ、点差を詰める。浦実ペースの中、緑台GK 鷺田が好セーブを連発。傾きかけたゲームの流れを死守する。浦実清水のロングで必死に追いつがるも、緑台No.2 サイド黒田の連続得点、この試合10得点の山崎のシュートで僅差を守り切り、緑台が歓喜の初勝利をあげた。

29年 3月 25日

記載者氏名 沖野 勝洋

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

1

男子 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点				総得点	チーム名	
水海道第二高等学校	19	[	7	—	5	]	四天王寺高等学校
			12	—	9		
			—				
			—				
			—				
			7mTC				

選抜大会 2 回戦第 1 試合は、第 1 シード 31 回出場の県立水海道第二と 22 回出場の四天王寺の対戦。

水海道第二のスローオフ。試合開始早々水海道 11 番のサイドからのシュート。四天王寺 19 番、15

番のシュートが決まる。水海道 11 番サイドからのシュートが決まり、開始 5 分までボール展開

の速いゲームとなった。その後、水海道は 3 番を中心に得点を入れる。開始 14 分に四天王寺 19 番

のシュートが入り、4 対 3 で水海道 1 点のリード。水海道の速いパス回しによる攻撃をするが、

四天王寺も DF を踏ん張る。水海道 5 番のポストシュート、四天王寺 19 番、28 番のシュートが

決まり、同点。その後、水海道 3 番、2 番のシュート、四天王寺 28 番のシュートが決まり、一進

一退のゲームとなった。水海道 2 番のシュートが決まり、前半 7 対 5 で終了。水海道 2 点のリード。

後半開始、水海道 4 番のシュートが決まり、水海道 3 点差と広げる。その後、両チームとも得点を

を取るが、水海道が開始 25 分には 6 点差までリードを広げる。最後は 19 対 14 で水海道の勝利と

となった。

2017 年 3 月 24 日

記載者氏名 中野 健

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

2

男子 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
飛驒高山高等学校	22	9	11	城北高等学校
		13	18	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC	13	

東海ブロックから13年連続16回目の出場となる飛驒高山高校（岐阜）と九州ブロックから2

年ぶり5回目の出場となる城北高校（熊本）の対戦。城北のスローオフから試合は始まった。

先制点は飛驒高山10番（山之上）のロングシュート。その後、飛驒の速攻に対して城北は5番

左のエース（亀川）を中心とした攻撃で応戦し、一進一退の攻防が続く。12分を過ぎて4対4の同点。

中盤を過ぎても互角の戦いが続き17分半を過ぎて6対6の同点のまま。お互いのチームカラーを活か

した攻防は終盤になっても続き、城北2点リードの11対9で前半を終了した。

後半の先制は城北。堅い守りから相手のミスを生み出し速攻に転じて7番（村里）が決める。飛驒

もスピードを生かした攻撃で反撃するが、5番（亀川）の巧みなパスワークを起点とした攻撃を防ぎ

きれず点差を詰めることが出ない。5点差が開いた中盤、退場者が城北に出たチャンスに飛驒はシュ

トチャンスを得るが1点しか返せない。16分半ばに飛驒は5番（亀川）にマンツー、GKをベンチ到下

げ7人攻撃で必死に抵抗する。最終スコアは29対22、最後まで冷静に対処し続けた城北が勝利した。

2017年 3月 25日

記載者氏名 正田 慎。